



2019・5・21

第 339 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

3000 万人署名徹底追求し、参院選の審判へ

改憲論議入りめぐり攻防激化

5月16日、衆院憲法審査会が開かれましたが、幹事の交代を承認しただけで終わりました。自民党は17日も開かれた幹事懇談会で、与党提出の国民投票法改定案の採決を求めましたが、野党側は投票法本体の審議を求めるとして折り合いがつかず、審議会のあり方をめぐって攻防が激化しています。自民党のねらいは、1日でも早く国会の憲法審査会で「自由討議」に入り、そこで改憲案論議の「実績」をつくったうえで改憲問題を参院選の争点にしていくことにあります。

安倍首相、「改憲を参院選の争点に」

安倍首相も17日、下村博文党憲法改正推進本部長と会談し、「夏の参院選できちんと改憲を訴えていく」ことで一致しました。

下村氏はこの日、参院選公約作成に向けた意見交換のための全国の都道府県連の政策責任者会議に出席し、会議では参院選の「合区」解消のための改憲を求める発言を受け、9条への自衛隊明記などの党がまとめた改憲案を説明しました。

同党の公約作成委員会は月内にも公約原

案をまとめる作業をすすめています。ここでは改憲の「早期実現」を明記する動きがあると報じられています。

盛り上がった地域活動の交流会

【岡山県／県九条の会】 5月3日、憲法集会の午前中、県9条の会は岡山医療生協コムコムホールで全県交流会を開きました。熱気あふれる発言で、時間が足りないほどでした。

準備段階では、「急な呼びかけで参加は少ないだろうが、今は大切な時、元気を出そう」と事務局会議の申し合わせに沿って、発言を組織しましたが、「短時間なら」「そんなにやっていないから」と皆さん消極的なお返事でした。それでも何とか6人と約束を取り付け、準備に入りました。

ところが、当日は40人の参加で、8人が発言。7分程度とお願いした発言は10分以上に及び、充実した交流会となりました。

いくつかの教訓的な活動が浮き彫りになりました。それは、①地域9条の会は停滞していたと思われる憲法署名を地道に進めていることです。②地域と結びつき、神社仏閣との連携や会員拡大、総会、ニュース

発行に取り組み、地域に根ざす活動が定着していることです。③定例宣伝が持続的に取り込まれ、高梁 9 条の会は行政から文化団体とのお墨付きをもらっているなど、地域で認知される活動になっています。④職場 9 条の会は瞬発力があり、一気に署名数を上げることができるが持続的な運動になりにくい側面があり、地域 9 条の会は活動に専念しており、粘り強い活動が地域に歓迎されていることも分かりました。

チューリップフェアの会場前で

【富山県砺波市／市民アクション小矢部、となみ、なんと】 砺波市で 3 日、全国 3000 万人署名・市民アクション小矢部、となみ、なんとの 19 人がチューリップフェア会場前で、安倍 9 条改憲ノー 3000 万人署名の宣伝をしました。

横断幕やプラスター、のぼりをかかげ、ビラを配りながら「憲法 9 条を改悪させないために署名をお願いします」「再び戦争する国にさせてはなりません」と署名をよびかけました。汗ばむような好天のなか、家族連れの観光客や県外からのフェア参加者も多く、「がんばっていますね。地元でやっています」と言う人や外国から訪れた人などが署名していました。

94 人の署名が集まり、シール投票では改憲に賛成 17、反対 95、わからない 33 という結果でした。石川県から参加した若い男女 2 人は「公務員試験を受けるのに憲法の勉強をした。安倍さんは憲法を変えてやばいことをしようとしている」と言いながら署名していました。

命を守る立場で 9 条の大切さ訴え

【北海道／医療九条の会・北海道】 憲法 9 条とともに、医療従事者として 25 条(生存権)を大切にしてきた「医療九条の会・北海道」。3 日には、白衣を着た医師や看護師が札幌市の大通公園に集まり、リレートークを行いました。

「私たち命を守る医療・介護者は、憲法を守ります」と書いた横断幕や「平和」のプラカードを掲げた行動。「上を向いて歩こう、戦争止めるその時まで」とギターの弾き語りに、観光客が足を止め、聞き入りました。

初参加という相澤依里さん(36)は「若者が憲法を正しく判断できる、深く考えられるこういう場があるのはいいことです」といいます。

医師の嶋本義雄さんは「世界では子どもたちが傷つき殺されています。9 条を持つ日本の役割は大きい。9 条を守る政治を実現しましょう」と語ります。

歯科病院勤務の石崎龍之介さん(24)は「戦争が起き、遊んでいる子どもの声が聞こえなくなると、9 条を変えてはいけません。公園でくつろぐ人たちに戦争や子どもの将来を考えてもらえれば」と訴えました。

身近にある憲法を再認識

【岐阜市東部／藍川地域九条の会】 11 日、藍川地域九条の会 3 周年の集いが藍川地域九条の会、さゆり健康と又化講座の共催で開かれ、40 人が参加しました。「改めて日本国憲法の大切さについて考えよう」と岐阜合同法律事務所の岡本浩明弁護士が講演しました。

岡本氏は、憲法クイズを出しながら、意外に身近に憲法があると説明。その上で、憲法とは国家のあり方を決めるもので、近代憲法の特質として国民の自由を権利として保障し、国家権

力が従わなければならない最高法規になっていると指摘しました。

憲法解釈を変えて集団的自衛権の行便を容認し、安保関連法(戦争法)を強行した安倍政権を批判。安倍9条改憲NOの3000万人署名を集め、改憲の賛否を問う国民投票の発議を許さず、改憲勢力の3分の2の牙城を崩すために、夏の参院選が決戦の時だと強調しました。

大塚研二事務局長が毎週火曜日の早朝スタンディング宣伝(会発足後通算92回)などの活動を報告し、歌声サークル「結」(ゆい)が「島人ぬ宝」などの美声を披露しました。参加した男性は「大変わかりやすい説明で、忘れかけていたものを思い出させてもらいました」と語りました。

平和訴えピースウォーク

【新潟市西区／西新潟9条の会】 3日、西新潟9条の会のよびかけでおこなわれ、12回目の「西区でピースウォーク」に、70人が参加しました。新潟大学正門前の出発集会で、川上真紀子代表が「安倍内閣を見ていたら、生活予算がどんどん削られ、子どもたちの未来はとても厳しいと感じる。私たちはおとなしすぎるのではないか。今年に怒りたい」とあいさつしました。

事務局の柳弘紀さんが、「憲法9条は人類の叡智(えいち)が生み出した文化遺産、一部の日本国民が勝手に変える権利はない」と訴えました。

行進では、「平和憲法があつてこそ、私たちは世界の人々と仲良くできます。安倍政権の改憲を許さず、9条を未来に向け、守り、伝えていきましょう」とアナウンス。参加者は、「政府は、憲法9条を守れ！主権

は国民のものだ！政府の勝手は許さないぞ」と、元気よく唱和しました。

新聞県内版に5000人の意見広告

【静岡県／県内9条の会】 静岡県内の「九条の会」は3日、読売新聞と毎日新聞の、県内版1頁全面を使い安倍9条改憲に反対する意見広告を掲載しました。憲法記念日にあわせて毎年行い、今年で9回目です。80を超える県内の9条の会が参加して、市民に呼びかけ、5006人が新聞掲載に賛同しました。

紫がかつた9の字に包まれた子どもの写真が目をはきます。大見出しで「憲法変えるな！政治を変えよう！」と主張。ウソだらけの安倍政治を批判し、民意を無視する政治でなく国民の声を尊重する政治への転換を訴え、3000万人署名で安倍9条改憲をストップ、沖縄の民意に従い辺野古新基地中止を呼びかけています。

実行委員会事務局の澤村正紀氏は、「政治を変える必要性を多くの人に考えてほしい、と企画しました。幅広い賛同者の草の根の力で安倍政権を退陣に追い込みたい」と話しています。

県東部の地域新聞にも同様の意見広告が出されています。

分断乗り越え野党は共闘を

【東京都足立区／千住九条の会】 4月21日、「市民と野党の共闘で安倍改憲にストップを！」のテーマで中野晃一氏講演会を開催、98名が参加しました。

まず「辺野古県民投票の会」代表の元山仁士郎氏が闘いの報告。元山さんは多様な

意見を持つ人々と話し合い、署名を集め、県民投票不参加表明の5市長に対し、ハンガーストライキで抗議したことで政治家が動き、県民の7割を超える人々が市民・若者主導の運動をつくったと述べました。

続いて、中野晃一氏の講演。今の政治状況は、生活や平和を壊させないため決戦の時。政権がピンチになると安倍は改憲アクセルを踏む。政権側も焦っているが弱まっている。運動の組立方として、分断をのりこえ、参院選で改憲勢力の2/3を阻止できれば改憲はストップできる。安倍はひどいが野党もだらしがないと思う人が沢山いる。安倍は多くの人に棄権してもらうのが好都合である。あきらめた人、無関心な人を連れてくること、そして彼らの話を聴く事が大事。市民と野党の共闘をさらに一層広げ、勝利したいと訴えました。

元気と希望をもらった講演会でした。

遠くの親戚に呼びかけてみたら

【神奈川県厚木市／あつぎ・九条の会】会のニュースの配達先や職場の同僚、近くにいる友人・知人からの署名はもらい、一段落と思っていました。

ところが、「九条の会」より2月22日付で、「5月3日を、市民がこぞって署名を持ち寄り、安倍改憲 No! の声をあげる総決起の場にしようではありませんか」という声明が発せられました。

そこで、九州に住む従姉のところへ落合恵子さんや瀬戸内寂聴さんら16名の写真が載っているカラーのA4二つ折りのチラシと3000万人署名の用紙を3枚送ってみました。

すると、電話があつて、「私の兄弟や、その会社で働いている人たちの分も署名を集めたいので、署名用紙をコピーしていいだろうか?」と言ってくれました。もちろん「どんどんコピーしてください」と返事をしたところ、102筆の署名を送ってくれ、「5・3有明防災公園での憲法集会」に間に合いました。

(後藤幹生「あつぎ・九条の会」NO151)

絵本にまで自衛隊はヘンだ!

【神奈川県箱根町／箱根九条の会】子育てを終えて久しくなるが、先日、新日本婦人の会が発行している「新婦人新聞」4月18号に驚くべき記事が載っていた。

3歳から6歳が対象の絵本「はじめての働く車」(講談社ビーシー/講談社)に子どもたちの大好きな消防車やはしご車、ゴミ収集車等の車と一緒に自衛隊の戦車、護衛艦、ミサイルを積んだ車両や先日墜落した欠陥機F35A 戦闘機等が6ページにわたって掲載されているというのだ。

安倍首相が狙っている「憲法九条に自衛隊を書きこむだけ」の安倍改憲の刷り込みかまたは自衛隊勧誘の地ならしかと空恐ろしくなる。

昔、子どもたちと読んだ車の絵本を本棚から引っ張り出して見た。「のろまのローラー」や「しょうぼうじどうしゃじぶた」など楽しかった思い出が蘇る。

でも、これからは絵本を選ぶのにも「戦争の芽」がないかと気をつけなければいけないと感じた。母親は「戦争の芽」を摘み取ろう。

(K・Y、箱根九条の会「はばたき」120号)